一酸化炭素検知機能付き 火災警報器

施工説明書(施工される方へ)

お客さまにこの警報器を安全に正しくご使用いただくために、この施工 説明書をよくお読みいただき、指定された取り付けを行ってください。

自動試験機能付

型式名 SC-745 / SC-345





PLUSCO 快適ウォッチ。

PLUSCO

▋お願いとご注意

- 警報器の取り付けは、この施工説明書に従って、指定された取り 付けを行ってください。
- 取り付け終了後に、必ず動作確認を行ってください。万一、作動 不良があったときは交換してください。
- 取り付け終了後に、「警報器の説明」「お客さまへの周知事項」 について、必ずお客さまに説明してください。
- 取り付け前に必ずお読みいただき、お客さまや他の人々への危害 や損害を未然に防止するために、必ずお守りください。 注意事項は、誤った取り扱いによる危害や損害の程度を、下記 の表示で区分しています。

● 告 作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が死亡または 電信な台ニューを対しております。 重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

作業を誤った場合に、取付作業者および使用者が傷害を負う 場合または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

≜告

- ●分解や改造はしないでください。 故障の原因となります。
- ●取付期限を過ぎた警報器は、取り付けないでください。 正常に動作しないおそれがあります。 取付期限は、警報器のセンサが十分な性能を発揮できる取り 付けまでの期限であり、個装箱に記載してあります。
- ●警報器の取り付け、取り外し、動作確認などを行うときは、 安定した踏み台を使い十分注意してください。 転落・転倒・落下によるケガのおそれがあります。
- ●警報器を落下させるなど、衝撃を与えないでください。 故障の原因となります。
- ●ライターの炎やタバコの煙などを使って、動作確認を行わな いでください。

火災や故障の原因となります。

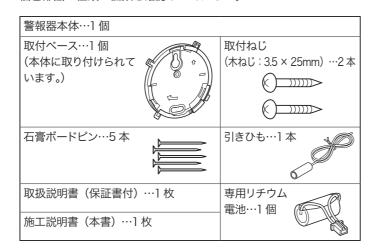
| 注意

- ●警報器の前に物を置いたり、取り付けたりしないでください。 警報の遅れの原因となります。
- ●引きひもを強く引いたり、引きひもにぶらさがらないでください。 転倒や落下のおそれがあります。
- ●付属の取付ねじなどを使用して確実に取り付けてください。 両面テープなどで取り付けると、落下によるケガやものが破 損するおそれがあります。
- ●取付ベースや警報器本体の取り付けは、確実に行ってください。 落下によるケガやものが破損するおそれがあります。
- ●警報器に耳を近づけて、警報音を聞かないでください。 聴力障害などの原因になるおそれがあります。
- ●正しい取付位置に取り付けてください。 取り付けてはいけない場所に取り付けると、警報の遅れ、誤 作動、故障の原因となります。

2 取り付け前の確認

|2-1 梱包部品の確認

梱包部品の種類と個数を確認してください。



2-2 設置する前に

警報器本体・保証書への必要事項の記入

①本体の交換期限記入欄に、交換期限を 記入する。



本体底面

② 付属の取扱説明書(保証書付)にお取り付け年月日・お客さま情報・ 販売店情報を記入する。

交換期限記入欄-

取り付ける前に

警報器本体から取付ベースを取り外す

本体を持ち、取付ベースを手のひらで押しながら、左(反時計回り) に回して、取付ベースを外してください。



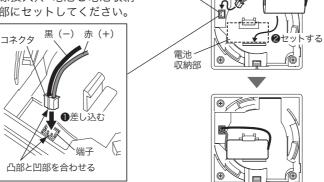
おねがい

取付ベースを引っ張りながら回さないでください。 取り付け時の本体落下防止の安全ロック機構が働くため、取付 ベースは外れません。

電源を入れる

- ●専用リチウム電池のコネクタは確実に差し込んでください。 差し込みが不十分な場合、発熱するおそれがあります。
- ●コネクタの接続にドライバーなどを使用しないでください。 コネクタが破損したり、専用リチウム電池がショートする原 因になります。
- ●リード線の赤(+)と黒(-)の向きを間違えないように、 確実に差し込んでください。
- ●専用リチウム電池の外装フィルムは電池を保護するものです。 はがさないでください。 _____

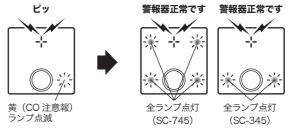
電池のコネクタを、警報器 裏面の端子に差し込み(電 源投入)、電池を電池収納 部にセットしてください。



コネクタ

雷洲

②「ピッ」と鳴り、約30秒間、黄(CO注意報)ランプが点滅した後、 全てのランプが点灯してから消灯し、「警報器正常です」とお知 らせします。



引きひもの取り付け(必要な場合のみ)

! 注意

●警報器を、壁面に取付ねじ1本で引っ掛けて取り付ける場合、 または、天井面に取り付ける場合は、引きひもを取り付けな いでください。

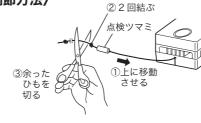
- 引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガ をするおそれがあります。
- ●引きひもを取り付けるとき、取付部が引かれて警報音が鳴る ことがありますので、注意してください。

結び目を引きひも取付部に引っ掛けて、引きひもを溝に通す。



〈引きひもの長さの調節方法〉

- ①点検ツマミを上に 移動させる。
- ② 適当な長さとなる 部分で2回結ぶ。
- ③ 点検ツマミの先の 余ったひもを切る。



引きひもを取り付けた後は、数回引きひもを引き、正常に操作できるこ とを必ず確認してください。

|2-3||取付位置の確認|

※ 設置および維持基準は、政省令で定める基準にしたがい、市町 村条例で定められています。各市町村によって設置場所が異な る場合がありますので、各市町村が定める火災予防条例を確認 してください。

おねがい

- ●設置場所は、お客さまとよく相談してお決めください。
- ●快適おしらせ機能付の SC-745 については、直射日光が当たる 窓の近くや、熱がこもる場所に設置すると、熱中症おしらせが 鳴りやすくなることがあります。

設置基準を守ったうえで、生活環境に近いところに設置するこ とをお勧めします。

企注意

正しい取付位置に取り付けてください。

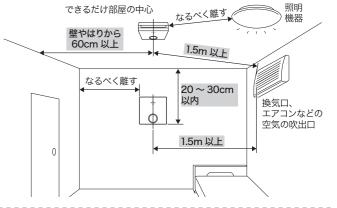
取り付けてはいけない場所に取り付けると、火災警報および CO注意報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

本警報器はガス機器の設置基準及び実務指針に記載されている ガス警報器の設置場所には設置できません。

正しい取付場所について

● この警報器は、以下のような場所への設置をおすすめします。 居室、寝室、階段、廊下

【設置例】



● 警報停止スイッチ(点検、警報音停止兼用)が操作しやすく、 ランプが見やすい位置に取り付けてください。

● 天井面に取り付ける場合は、 壁やはりから 60cm 以上離 した位置に取り付けてくだ さい。

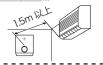


- 壁面に取り付ける場合は、警報器の 底面が天井面下 20cm から 30cm までの範囲にくるように取り付けて ください。
 - ※ 住宅用防災警報器の設置基準で ある天井から火災警報器の中心 まで 15~50cm と、ガス警報 器の設置基準である天井から 30cm 以内を満たす設置位置と なります。

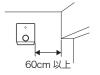


● 換気口など、空気の吹出口から 1.5m 以上離してください。





● 壁面に取り付ける場合は、できるかぎり たれ壁やはりから 60cm 以上離してくだ さい。



取り付けてはいけない場所について

以下の場所には、絶対に警報器を取り付けないでください。 警報の遅れ、誤作動、故障の原因となります。

- 浴室内、水のかかる場所、水滴がつく場所、結露する場所。 感電や電気的故障の原因になります。
- 温度が 0°C~+ 40°Cの範囲をこえる場所。 警報器としての機能を果たしません。また、誤作動の原因にな
- タンスなどから 60cm 以内の場所。



● ホコリや虫の多い場所。

● 火災以外の煙や蒸気がかかる場所、車庫など。

屋内専用です。

● 換気扇、扇風機、ドアの近くやすきま風の強いところなど空気の 流れが激しい場所。 警報が遅れたり、検知できないことがあります。

● カーテンウォールなどで仕切られた場所。

● 振動、衝撃の激しい場所。 センサの故障の原因になります。

_____ ● 燃焼器具などの排気、湯気、油煙および調理用アルコールの蒸 気が直接かかる場所。 センサ寿命が短くなったり、誤報の原因になります。

3 取り付けかた

取付場所の違いによる取付方法と引きひもの取付可否

取り付けを行う面と壁面の材質により、取付方法は異なります。 必ず、指定された方法による取り付けを行ってください。

ここを確認して

こう取り付けてください

取付面	壁面の材質		取付方法	引きひも 取り付け
壁面	木質・ 石 膏 ボード	•	壁面固定 (取付ねじ2本)	可能
	石膏ボード	•	壁面固定 (石膏ボードピン4本)	可能
	木質	•	壁面引っ掛け (取付ねじ 1 本)	不可
天井面	木質・ 石 膏 ボード		天井面固定 (取付ねじ2本)	不可

⚠ 警告

- ●木質などの壁面に壁掛け取り付け(取付ねじ1本に引っ掛けて 取り付ける)をする場合は、引きひもは使用しないでください。 引きひもを強く引くと、本体の落下により、お客さまがケガ をするおそれがあります。
- ●天井面に取り付ける場合は、引きひもは使用しないでください。 引きひもを強く引くと、本体が落下するおそれがあります。 ______

! 注意

- ●取付位置の材質・強度を確認し、土壁や強度の弱い合板には 取り付けないでください。
- ●取付強度を保持するため、取付ねじ、石膏ボードピンは根元 まで差し込んでください。万一、ゆるんだ場合は、取付位置 をずらして付け直してください。
- ●取り付けには、両面テープを使用しないでください。
- ●天井面に取り付ける場合は、石膏ボードピンを使用しないでください。

おねがい

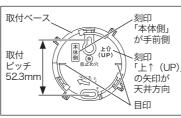
- ●天井面に固定する場合は、補強材が通っている箇所に取り付けて ください。
- ●石膏ボードに取付ねじで取り付ける場合、必要に応じて市販の石 膏ボード用アンカー (φ 3.5 mm木ねじ用) を使用してください。

き面固定(取付ねじ2本)の取り付け、または 壁面固定(石膏ボードピン 4 本)の取り付け

1. 取付ベースの取り付け

A. 取付ねじ2本での取り付け

- ① 取付ベース外周部の目印が壁面の目地などと平行になるように、 取付ベースを取付ねじ(2本)で壁面に仮締めする。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ (2本) を本締めする。
- ※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認し てください。

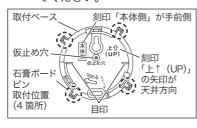




③本締めする

B. 石膏ボードピン4本での取り付け

- ① 石膏ボードピンを、仮止め穴に差し込んで仮止めする。
- ② 取付ベースの目印が壁面の目地などと平行になるように、取付 ベースを石膏ボードピン(4本)で壁面に固定する。 ※ 取付ベースが、壁面に密着して固定されていることを確認し てください。



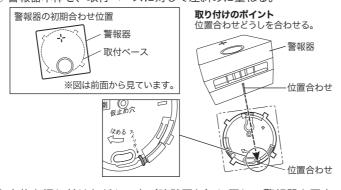


2. 警報器の取り付け・微調整

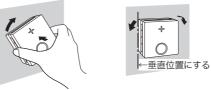
おねがい

引きひもを取り付けている場合は、警報器を取り付けた後で引き ひもが引けることを確認してください。(引きひもの取り付けに ついては、表面「引きひもの取り付け(必要な場合のみ)」参照)

① 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



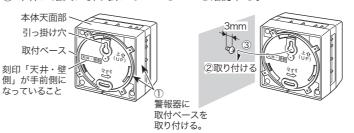
② 本体を押し付けながら、右(時計回り)に回して警報器を固定 した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を垂直 位置にする。



※ 角度の微調整の際、警報器を左(反時計回り)に回し過ぎて、 「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれが あります。

壁面引っ掛け(取付ねじ1本)の取り付け

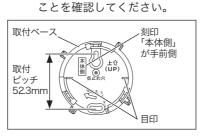
- ① 取付ベースの刻印「スイッチ」と警報器のスイッチの位置を合 わせながら、取付ベースの引っ掛け部の手前に警報器裏面の突 起(3箇所)を合わせて、取付ベースを回して取り付ける。
- ② 取付ねじ (付属) を壁面から 3 mm 出るように取り付ける。 ※ ねじを完全に締め付けた状態から 1 回転半戻すと、約 2 \sim 3 mm になります。ねじが出過ぎると、引っ掛けたときに取付 ベースの裏面が破損するおそれがあります。
- ③ 本体の引っ掛け穴部分を取付ねじに引っ掛ける。
- ④ 本体が確実に引っ掛かっていることを確認する。



| 天井面固定(取付ねじ2本)の取り付け

1.取付ベースの取り付け(取付ねじ2本)

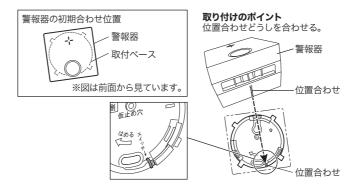
- ① 取付ベースの目印が天井の目地などと平行または垂直になるよ うに、取付ベースを取付ねじ(2本)で天井面に仮締めする。
- ② 取付ベースを左右に回転させて、取付角度を微調整する。
- ③ 取付ねじ (2本) を本締めする。 ※ 取付ベースが、天井面に密着して固定され容易に脱落しない





2. 警報器の取り付け・微調整

① 警報器本体を、取付ベースに対して左斜めに重ねる。



② 本体を押し付けながら、右(時計回り)に回して警報器を固定 した後、少し左右に回転させて角度を微調整し、警報器を天井 面の目地などと平行または垂直位置にする。



※ 角度の微調整の際、警報器を左(反時計回り)に回し過ぎて、 「カチッ」と音がした場合は、警報器が外れているおそれが あります。

4 取り付け後の動作確認

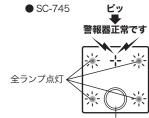
⚠ 警告



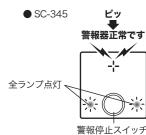
ライターの炎やタバコの煙などを使って、点検を行わ ないでください。 火災や故障の原因となります。

·----

- ① 警報器が警報動作中や警報音停止 中ではないことを確認する。
- ② 警報停止スイッチを約 1 秒間押す。 「ピッ」と鳴り、すべてのランプ が点灯してから消灯し、「警報器 正常です」と鳴ると正常です。
- ※ 以下の異常などがないかを確認で きます。
 - ・ 煙感知部の異常
 - ・CO 検知部の異常
 - 電源異常



警報停止スイッチ



5 お客さまへの説明について

警報器の取り付け、点検が終わったら、お客さまに以下の説明を行い、 ご理解を得てください。

|5-1||警報器の説明

- ① 警報動作および点検結果の説明。
- ② 取扱説明書を必ず読んでいただくことのお願い。
- ③ 保証書および取扱説明書の保管のお願い。
- ④ 取扱説明書に基づく主要な機能の説明と確認。 (取扱説明書「3. 警報器のお知らせ機能について」参照)
 - 1. 火災警報の内容(赤(火災警報)ランプ点滅、音声合成音の 確認)と、警報時にとるべき処置の説明。
- 2. CO注意報の内容(黄(CO注意報)ランプ点滅、音声合成音 の確認)と、注意報時にとるべき処置の説明。
- 3. 部屋の外にいて、CO注意報に気づいたときにとるべき処置
- 4. 誤報が発生する原因と処置の説明。
- 5. 下記機能の説明。
- ●故障お知らせ機能
- ●電池切れお知らせ機能
- ●交換期限お知らせ機能

|5-2||お客さまへの周知事項|

- 保証期間のお知らせ。
- ② 警報器の交換期限のお知らせ。(本体の交換期限記入欄に表示)
- ③ 保証書を必ず読んで内容を理解した上で取り扱うこと。
- ④ 警報器の移設禁止。(移設依頼の連絡先)
- ⑤ 警報器の分解禁止。
- ⑥ 引越時の処置。
- (7) 故障・異常時の連絡先。
- ⑧ 定期点検の実施。